



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和3年9月2日発行

文責 校長 宮原 友彦

感染対策からの2学期、緊張感のあるスタートとなります

今年の夏も、とても暑かったですね。コロナ感染症への対応と熱中症への対応で大変だったことだと思います。家族でお出かけする機会もなかなかなかったのではないのでしょうか。また、お盆前後の豪雨の被害はありませんでしたか？今年の42日間の夏休みは、例年とはまた違ったものとなったことだと思います。

<新型コロナウイルス感染症対策について>

現在、コロナウイルス感染症がさらに拡大し、8月27日(金)から長崎市と佐世保市がまん延防止等重点措置の重点措置区域にはじめて指定されました。県独自の緊急事態宣言とともに9月12日(金)までは、できるだけ他の人との交流を極力控えることが最大の感染対策となります。今回の第5波が、これまでと大きく異なるのは次の4点です。

- ・子どもへの感染が懸念されること。
- ・学校における感染の拡大が予想されること
- ・各指標が最高レベルに上がったこと(県の感染ステージ5、学校の新しい生活様式 Ver.6 のレベル3)
- ・長崎県が「まん延防止等重点措置」の重点措置区域に指定されたこと

これを受けて

<2学期の行事>

1. 長崎市校長会の判断

長崎市小学校体育大会、長崎市小学校音楽会、特別支援学級交歓会の中止が決定されました。

理由(1) 交流を通して、学校間で広まってしまう恐れがあること。

(2) 今の感染状況では、大会に向けての練習が安全かつ十分に行えないこと。

2. 三原小学校の判断

(1) 運動会の延期→練習が安全かつ十分に行えないこと。9月中実施の場合は**無観客**で行わなければならないこと。

感染の拡大・縮小の波から予想・判断し、**10月31日(日)へ延期**します。

(2) 修学旅行は**現時点では一部行程を変更し、感染対策を十分にしながら、予定どおり実施**。「まん延防止等重点措置」が延長され実施日が含まれた場合は、延期(場合によっては中止も含む)。

※ 期間中の三原小学校の感染症対策(従来の感染対策を行ったうえに) 合言葉「正しく怖がり、賢く生きる」

(1) 不織布マスクの推奨…教職員は感染効果が高い不織布マスクを着用します。児童についてはできるだけ不織布マスクを使用するよう、啓発を図ります。しかし、布マスク、ウレタンマスクも使用可とします。

(2) 登下校時の検温・手指消毒の徹底…登校時、検温、手指消毒を行い、校内にウイルスを持ち込ませません。

下校時も玄関で手指消毒をし、ウイルスを家に持ち帰らせません。

三原に吹く風

夏休み明け、三原小学校では、2つうれしいことがありました。1つめは、**新品のジャングルジムが設置**されたことです。もう使ってみた人もいられるかもしれません。あと2年はかかると言われていたジャングルジムが、三原っ子のためにと、たくさんの人の努力のおかげで、夏休み中に届けられました。感謝して、大切に使いしていきたいですね。

2つめは、**新しくチーム三原の仲間**として、特別支援教育支援員の**森麻子先生**を迎えたことです。教職の経験もあり、おひさま・かがやき学級だけでなく、通常学級でも子どもたちのサポートを行っていただく予定です。学習面、生活面の両方で支えていただけるのは、三原っ子にとってはうれしい限りですね。

宮原のつぶやき

2学期始めのMIHARA TIMESが、いきなりの感染症対策による行事の中止・延期・変更のお知らせとなり、心苦しく思います。対象学年となる6年生、3年生、おひさま・かがやきのみんなとは、全校集会の後、直接話をしに行きました。特に小体会については、自分自身、教職に採用されて2年目から、管理職になる前の年まで(途中8年間のブランクあり)の19年間と今年の計20年間、事務局として運営に関わってきました。今年で59回の大会となりますが、おそらく初の中止となります。毎年開催に向けて、大変な思いと苦勞をし、先輩方がつないできたタスキがコロナ禍のために、いったん切れてしまうのは本当につらく、悲しく、やりきれない思いです。しかし、それ以上に6年生の気持ちを思うと、いたたまれません。効果的なワクチン、治療薬が早く開発されて、「当たり前の日常 Ordinary days」を取り戻すことを願うのと同時に、失って初めて気付く大切さを改めて感じた今回の出来事でした。(字が小さくて、読みづらくてすみません)